最新 道徳科の評価（ダイジェスト版）

2019.04 後藤 忠
（作成協力者：橋本ひろみ氏）

道徳科の評価の意味と意義

授業のねらいに即して、児童生徒の「学習状況」や「道徳性に係る成長の様子」を捉えて、**個々の児童生徒の成長を促す**とともに、それによって自らの指導を評価し、**授業改善に努める**ことにある。

（解説 108 ページ～）

1） 評価の基本方針　*※この基本方針は**指導要録**の基本方針と理解する。*

◇ 数値による評価は行わず、記述式であること
◇ 相対評価はせず、個人内評価であること
◇ 個々の内容項目ごとの評価ではなく、大くくりなまとまりを踏まえた評価を行うこと
◇ 道徳性に関する観点別評価はしないこと
◇ 入学者選抜の合否判定には活用しないこと　　など

2） 何を把握（評価）するのか（評価の視点） ☆道徳科の評価を「把握」ととらえると分かりやすい。

「道徳科の目標」に示されている「**4 つの学習**」について把握（評価）する。

> **道徳的諸価値についての理解①を基に、自己を見つめ②、物事を（中：広い視野から）多面的・多角的に考え③、自己の（中：人間としての）生き方についての考えを深める④学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。**

つまり、上記①～④の「**学習状況**」や「**道徳性に係る成長の様子**」を把握（評価）する。

a　**道徳的諸価値について理解する学習状況**を把握（評価）する
（価値理解）道徳的諸価値は人間としてよりよく生きる上で大切なことだと理解する。
（人間理解）道徳的諸価値は大切だと分かっていても、なかなか実現できない弱さが人間にはあることを理解する。
（他者理解）道徳的諸価値を実現したり実現できなかったりした時の感じ方や考え方は皆一様ではなく、人によってそれぞれ違うということを理解する。

b　a に基づき、**自己を見つめる学習状況**を把握（評価）する
c　a に基づき、**物事を多面的・多角的に考える**学習状況を把握（評価）する
d　a に基づき、**自己の生き方についての考えを深める学習状況**を把握（評価）する

> 児童生徒の「学習状況」は**指導**によって変わってくる。
> 児童生徒が道徳の学習に興味関心をもち、主体的に学習に取り組むところに道徳性は育つ。**道徳授業改善の重要性**はそこにある。

3） どんな方法で学習状況を把握するか（解説 110 ページ～）

児童生徒の学習活動（読む、視聴する、聴く、考える、話す、つぶやく、書く、演ずるなど）の観察とその記録、ワークシート等への記述内容、授業後の面談などの諸方法を駆使して把握する。

☆「道徳科　指導と評価のガイドブック」（H30 年 3 月、都教職員研修センター発行）第 2 章～を参照のこと

4) 把握（評価）活動を行う上での注意事項

＊ 道徳科における授業中の児童生徒の**「学習状況」の*事実を具体的に*把握（評価）し続ける。**
（「道徳性に係る成長の様子」は学習状況の把握の累積によって自ずと見えてくる。）

＊ 授業中に「学習状況」の把握が可能な児童生徒の数には限界がある。したがって、無理のない把握（評価）計画を立てる。

＊ 「評価」を学習指導案のどこに記載するかは、次の 2 通りが考えられる。
① 「学習指導過程」欄の次に「評価」の欄を設ける。（従来、多く用いられてきた記載方法）
② 「学習指導過程」の中の「指導上の留意点」欄に「評価（把握）」の視点を組み込む。
いずれの場合も、何を把握するかを明確にし、それに即して「場面」と「方法」を具体的に記しておくことが大切である。

把握（評価）活動を行うに当たっては、把握（評価）のための授業にならないように注意し、計画的にコツコツと評価材を蓄積することに努めることが肝要である。

5) 「評価」の記述として不適切（NG）な表現

＊ 「～の**判断力**が育った」、「～の**心情**が育った」など、**道徳性**に関する観点別評価はしない。

＊ 「～について理解することが**できた**」など、評価規準を伴う到達度評価と誤解される恐れがある表現には気を付ける。ただし、「道徳性に係る成長の様子」の記述で、「自分との関わりで考えることができるようになった」、「多面的・多角的に考えられるようになってきた」等の表現は問題ないと考える。

＊ 「発表**してくれた**」など、「**～してくれた**」という表現は児童生徒の学習の性質上、不適切な表現と言える。

＊ 「クラスの誰よりも深く考えていた」など、**他の児童生徒と比較した記述**や、「積極的に手を上げて発言した」など**単なる学習活動の記述**、また、「授業で学んだことが実践につながった」など、**道徳科授業の特質からの逸脱と誤解されかねない記述**は不適切な記述と言える。

☆ 評価の記述例（参考）：小学校

どんな「学習状況」をどのように把握（評価）し、それをどのように記述するかは、一人一人の教師が明確な指導意図（指導観）をもって行う授業の実際に基づいて、各教師が行うべきものある。したがって、評価の視点例や記述例を示すことは適切ではないと言える。

しかし、具体的に何に着目して把握し、把握したことをどう表現したらよいかイメージがもてないという声もあるので、一応いかに示すが、ここに示す文章はあくまでもイメージをつかむためのヒントであり、各教師が把握（評価）活動を行う際の手掛かりにすぎないことをよく承知しておいてもらいたい。

間違っても「（評価の）記述はこのような書き方にしなければいけない」と絶対に受け止めないでいただきたい。

学習状況の把握（評価）の記述例

*※**学習状況の把握**は教師（学校）の評価記録の累積のために行うもので、外部に発信するための記述とは異なる。*

【1 年生　A[節度、節制]　「かぼちゃのつる」の授業で】
① 注意を聞き入れたくない気持ちが自分にもあることに気付いて、「これからはちゃんと注意を聞こうと思う」と発言した。
② まわりの人がどんな気持ちで注意をしているか、友達の考えを聞いて「そうか…」とつぶやいた。自分の考えを広げ、価値の理解を深める姿があった。

【3年生　C[家族愛、家庭生活の充実]「ブラッドレーのせいきゅう書」の授業で】
①「今までは面倒だなと思って家の仕事をしていたが、これからは大好きな家族のためを思って仕事をしていきたい。」と自己の生き方についての考えを深めていた。
②「ブラッドレーは親が子どもの面倒を見るのはふつうのことだと思っていたが、幸せなことだと気付いたのではないか」と発言した。話し合いの中で価値の理解を深める姿が見られた。

【5年生　B[友情、信頼]「友のしょうぞう画」の授業で】
①「友達の気持ちを深く考えないで『たぶん、こうだろう』と自分勝手に思ってしまうことが自分にもある」と主人公に自分を重ねて考えていた。
②「これからは友達のことをよく考え、気持ちを想像して声を掛けたい」と自己の生き方についての考えを深める発言をした。

指導要録(道徳性に係る成長の様子)の記述例

※　上記　1）**評価の基本方針**　を再度確認すること。
※「学習状況の把握」の累積を基に**指導要録**を作成する。（単なる 1 授業のエピソードではない。）
*（「**通知表**」もこの視点から作成する。ただし、保護者には具体的な授業のエピソードを交えて伝えた方が「**道徳性に係る成長の様子**」が分かりやすいと判断した場合には、そのような記述の仕方もあってよいと思う。）*

【低学年】
① 友達の考えをよく聞き、自分の考えとの違いに気付くようになってきた。
② 友達の考えにうなずいたり、つぶやいたりする姿が多くなり、価値の理解に広がりを見せている。

【中学年】
① 友達の話をよく聞き、共感するとうなずく姿が多く見られた。対話的な学びの中で価値についての理解を深めていた。
② 登場人物に自分を重ねながら自分との関わりで考え、発言する姿が多く見られた。

【高学年】
① 判断の根拠は人によって違うことに気付くなど、多面的・多角的に考えるよさを感じていた。
② 友達の考えに真剣に耳を傾け、自分にはない考えに出会う学習を楽しみにする姿があった。